

委員による二次評価まとめ（令和4年度事業の評価）

令和5年(2023年)8月16日  
横須賀美術館運営評価委員会  
資料2

I 美術を通じた交流を促進する

【集客・交流推進】

① 広く認知され、多くの人にとって横須賀市を訪れる契機となる。 [広報]

達成目標	・年間観覧者数 120,000人以上		(前年度)	1次評価	2次評価
			F	A	
小林委員長	S	・達成率118.9%を評価し「s」としました。			
菊池委員	S	・コロナ禍でこの数字は「S」に値する。社会教育施設の基本を維持しつつ大衆興味を融合させた取り組みの成果だと思う。			
柏木委員	A				
三浦委員	A				
川口委員	A	・達成率118.9%の成果			
鈴木委員	A				
実施目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な広報媒体の特性を生かして、効果的な広報活動を実施し、交流を促進する。</li> <li>・各種イベントを開催し、展覧会以外の要因での利用を増やす。</li> <li>・外部連携を推進し、様々な機会と場所を捉えて、美術館の情報を発信する。</li> <li>・旅行会社などへの働きかけを通じて、団体集客を促進する。</li> <li>・美術館のイメージアップにつながるようなTV放送、雑誌取材、プロモーションビデオ撮影などの商業撮影、取材を受入れる。</li> </ul>		(前年度)	1次評価	2次評価
			A	S	
小林委員長	S				
菊池委員	S	・一企画展を除いて、目標来館者数をすべてクリアできていることは、プロモーション活動と演出が集客につながった成果だと思う。			
柏木委員	S	・取り組みが奏功し、来館者数が25万人を超えて、地域の賑わいの拠点となっている点も評価します。			
三浦委員	S				
川口委員	S	・tvドラマ、snsを駆使した集客促進の成果			
鈴木委員	S				

②市民に親しまれ、市民の交流、活動の拠点となる。

〔市民協働〕

達成目標			
	(前年度)	1次評価	2次評価
・市民ボランティア協働事業への参加者数延べ1,700人 (事業ごとに加算。登録者・一般参加者を総合して)	F	F	
小林委員長	F		
菊池委員	F	・この項目については、コロナ禍が影響していることから、評価が難しい。	
柏木委員	F		
三浦委員	F		
川口委員	F		
鈴木委員	F		

実施目標			
	(前年度)	1次評価	2次評価
・市民が美術館に親しみを感じ、訪れる機会をつくる。 ・市民ボランティアが、やりがいを持っていきいきと活動できる場を提供する。	F	F	
小林委員長	F		
菊池委員	F	・達成目標に同じ	
柏木委員	F	・アフターコロナ、ポストコロナの活動の在り方を、参加者とともにしばらく模索していく必要があると思います。	
三浦委員	F		
川口委員	F	・今後も市民の安全を第一と考え状況に応じた活動を続けて頂きたい	
鈴木委員	F		

## II 美術に対する理解と親しみを深める

【社会教育】

③調査研究の成果を活かし、利用者の知的欲求を満たす。

[展覧会・教育普及]

達成目標	・企画展の満足度 80%以上	(前年度)	1次評価	2次評価
		A	A	
小林委員長	A			
菊池委員	A	・「解説・順路」の評価にばらつきがあるため、分析が必要と思われる。		
柏木委員	A	・解説などに課題はあるものの、全体として90%を超える満足度は目標値をはるかに上回っておりSに近いとAと評価します。		
三浦委員	A			
川口委員	S	・各企画展はほぼ90%以上の満足度		
鈴木委員	A			
実施目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幅広い興味に対応するようバランスをとりながら、年間6回(児童生徒造形作品展を含む)の企画展を開催する。</li> <li>・所蔵品展・谷内六郎展をそれぞれ年間4回、テーマをもたせた特集を組みながら開催する。</li> <li>・知的好奇心を満たし、美術への理解を深める教育普及事業を企画・実施する。</li> <li>・美術への興味や関心が深まる美術関連の資料(図書、カタログ等)を、図書室で収集・整理・保管・公開する。</li> <li>・資料が探しやすく、快適に利用できる図書室環境を維持する。</li> <li>・主として所蔵作品・資料に関する調査研究を行い、その成果を美術館活動に還元する。</li> </ul>	(前年度)	1次評価	2次評価
		A	A	
小林委員長	A			
菊池委員	A	・主管が部局に移動して、初年度のため今後試行錯誤することによって、達成目標にもいい影響が出ることを期待する。		
柏木委員	A	・独自企画展を含む多彩な取り組みにより、館の個性が十分、発揮されていたと思います。		
三浦委員	A			
川口委員	S	・展覧会に関連した様々なイベント、後援会、ワークショップ、動画制作等の実施を評価します		
鈴木委員	A			

④学校と連携し、子どもたちへの美術館教育を推進する。

[若年層への教育普及]

達成目標	・中学生以下の年間観覧者数22,000人	(前年度)	1次評価	2次評価
		F	C	
小林委員長	C			
菊池委員	C	・コロナ禍では、十分検討している結果だと思う。客観的に定量評価をするのであれば「C」とせざるを得ない。		
柏木委員	C			
三浦委員	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「連携」に基づく学校単位、学校経由での観覧を進めることと合わせ、それだけに依存しない手立てを講じるなど必要かも。</li> <li>・以前話題にした、子育て世代が子連れで来館、観覧できる環境(子連れ割引とか?)を整える等のご検討も。長期休業中のキャンペーンあたりから始めてみるとよいかもしれません。</li> </ul>		
川口委員	C			
鈴木委員	C			

実施目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校における造形教育の発表の場として、児童生徒造形作品展を実施する。</li> <li>・学校及び関係機関と緊密に連携し、子どもたちにとって親しみやすい鑑賞の場をつくる。</li> <li>・学校との連携を強化し、小学生美術鑑賞会を充実させる。</li> <li>・美術館を活用した鑑賞教育がもっと充実するよう、先生のための美術館活用講座をはじめ、教員の授業作りに有益な情報提供を積極的に行う。</li> <li>・子どもたちとのコミュニケーションを通じて、美術の意味や価値、美術館の役割などに気づき、考え、楽しみながら学ぶ機会を提供する。</li> <li>・鑑賞と表現の両方を結びつけたプログラムを実施する。</li> </ul>	(前年度)	1次評価	2次評価
		A	A	
小林委員長	A			
菊池委員	A	・コロナ禍において実施できる範囲で、工夫と努力が見られる。		
柏木委員	A	・教育委員会と連携した給食など、ユニークな取り組みを評価します。		
三浦委員	A	・研究会組織、美術科担当者組織等との連携強化は引き続き必要です。		
川口委員	A	・鑑賞会が全小学校で実施されたことを評価します。個人ベースでの来館は今後の課題		
鈴木委員	A			

⑤所蔵作品を充実させ、適切に管理する。

[収集管理]

達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境調査の実施(年2回)</li> <li>・美術品評価委員会の開催(年1回)</li> </ul>	(前年度)	1次評価	2次評価
		A	A	
小林委員長	A			
菊池委員	A			
柏木委員	A	・今後の継続的な購入による収集に期待いたします。		
三浦委員	A			
川口委員	A			
鈴木委員	A			

実施目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・収集方針に基づき、主体性を持って積極的な収集活動を行う。</li> <li>・作品の保管、展示について適正な環境を維持し、そのチェックのため必要な調査を実施する。</li> <li>・計画的に所蔵作品の修復、額装を行う。</li> <li>・所蔵作品が広く価値を認められ、他の美術館等で開催する企画展などに活用されている。</li> </ul>	(前年度)	1次評価	2次評価
		A	A	
小林委員長	A			
菊池委員	A			
柏木委員	A	・展覧会の実績が収集に結び付いている点を評価します。		
三浦委員	A			
川口委員	A			
鈴木委員	A			

Ⅲ訪れるすべての人にやすらぎの場を提供する

【運営・管理】

⑥利用者にとって心地よい空間、サービスを提供する。

[メンテナンス・来館者サービス]

達成目標	・館内アメニティ満足度 90%以上 ・スタッフ対応の満足度 80%以上	(前年度)	1次評価	2次評価
		A	A	
小林委員長	A			
菊池委員	A	・高いレベルで満足度を維持できている。		
柏木委員	A			
三浦委員	A			
川口委員	A			
鈴木委員	A			
実施目標	・建築のイメージを損なわないよう、じゅうぶんなメンテナンス、館内清掃を行う。 ・受託事業者と協力して、ホスピタリティのある来館者サービスを実践する。 ・運営事業者と協力して、付帯施設(レストラン及びミュージアムショップ)を来館者ニーズに応じて運営する。	(前年度)	1次評価	2次評価
		A	A	
小林委員長	A			
菊池委員	A	・本市のシンボルとしての位置づけが維持されている。レストラン等にも経営的にいい影響を与えていると思う。		
柏木委員	A			
三浦委員	A			
川口委員	A			
鈴木委員	A			

⑦すべての人にとって利用しやすい環境を整える。 [バリアフリー]

達成目標	・福祉関連事業への参加者数延べ60人以上	(前年度)	1次評価	2次評価
		F	A	
小林委員長	A			
菊池委員	A	・福祉イベントも復活し、オンライン活用などを取り入れハイブリッドな運営が定着している。		
柏木委員	A			
三浦委員	A			
川口委員	A			
鈴木委員	A			
実施目標	・年齢や障害の有無などにかかわらず、美術に親んでもらう(環境づくり)のための各種事業を行う。 ・必要に応じて、対話鑑賞等の人的サポートを実践する。 ・展覧会の観覧やワークショップ等に参加される保護者向けの託児サービスについて、積極的に周知し、利用しやすい内容で実施する。	(前年度)	1次評価	2次評価
		B	A	
小林委員長	A			
菊池委員	A			
柏木委員	A	・一次評価の理由に記されるとおり、多彩な取り組みの展開を評価します。		
三浦委員	A			
川口委員	A	・「ポケット学芸員」の手話動画は画期的		
鈴木委員	A			

⑧事業の質を担保しながら、経営的な視点をもって、効率的に運営・管理する。 〔経営的視点〕

達成目標	・電気使用量、水道使用量、事務用紙使用枚数を、過去2年間の平均値を目安とする。	(前年度)	1次評価	2次評価
		F	A	
小林委員長	A			
菊池委員	A	・電力量高騰など不可抗力の影響もあり、やむを得ない中で推移を注視しながら運営にあ たっている。		
柏木委員	A			
三浦委員	A			
川口委員	A			
鈴木委員	A			

実施目標	・職員全員が費用対効果を常に意識し、事業に取り組む。	(前年度)	1次評価	2次評価
		A	A	
小林委員長	A			
菊池委員	A	・コスト意識が共有されている。		
柏木委員	A			
三浦委員	A			
川口委員	A			
鈴木委員	A			



・令和4年度 横須賀美術館運営評価の方法について

小林委員長	○	・令和4年度の美術館の運営評価方法については、これまでの課題を前提に進められていますので、特に問題はないかと思えます。美術館が教育委員会から市長部署に管轄変更を見て2年経ちますので、変更に伴い新たに評価項目の検討が必要であれば、事務局側から評価委員会に提起されるといいのではないのでしょうか。
菊池委員	○	
柏木委員	○	
三浦委員	○	
川口委員	○	・市民委員の年齢性別のばらつきが必要。母集団を増やすアンケート依頼方法の工夫
鈴木委員	○	